

Active Fukushi

第10号

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

●高齢者施設福祉部会 広報誌

アクティブ福祉

平成24年8月20日 発行

高齢者施設福祉部会ホームページ

<http://www.tcs.w.tvac.or.jp/php/kourei/Kourei.php>

または **高齢者施設福祉部会** で検索



SPECIAL REPORT

スペシャル
レポート

感染症に負けない施設づくり ～レクリエーション担当職員を配置して～

養浩荘

表紙写真：レクリエーション担当による体操で利用者の免疫力をアップ

CONTENTS

アクティブ福祉 第10号

- スペシャルレポート 感染症に負けない施設づくり 2
- 「アクティブ福祉 in 東京 '12」参加者募集！ 3
- 福利厚生情報がかわら版 あくていぶ福利 3
- 職種リレー 介護職員 4
- ひと言！物申す！ 5
- 特集：地域包括ケアシステム
生活圏域における高齢者福祉施設の関わり 6
- 職員研修 Hop Step Jump
第3回「継続研修～互いに学び、高めあい」 8
- 養護分科会 9
- 軽費分科会 10
- 名物施設長紹介 11
- 健康問題 11
- 介護最前線／編集後記 12

スペシャル
レポート

感染症に負けない施設づくり ～レクリエーション担当職員を配置して～

養浩荘

●養浩荘施設長 野村絢子

●インフルエンザ発生！ 原因をアンケート調査

養浩荘は昭和56年開設、豊島区では一番古い特養です。池袋駅から徒歩約10分の都市型特養で地下1階地上5階建です。定員は特養50床・ショート8床で利用率は特養・ショート合計98%を守ってきました。ところが今年2月に突然インフルエンザA型の利用者が1名出てしまいました。感染症委員会を開き、感染経路を遮断し、すぐさま対応したものの、3週間の間に体調不良者が続出しました。通院すれば入院になり利用者数が満床時の8割の日もありました。インフルエンザA型の診断が出たのは利用者5名のみで持病悪化の方も多かったのですが、どうしてこういう事態になったのか、介護職員自身でアンケートを実施しました。

●利用者への早期対応と 職員の健康管理を徹底

第一に大切なことは利用者の様子観察、早期発見、初期対応。

第二に職員の健康管理。感染症は職員が媒介する可能性が高いため出勤時に検温していましたが、夜勤者はそれでは遅いので、前日の20時に検温することを申し合わせました。突然休みは他の職員へのしわ寄せが大きく、それがわかっているので、つつい無理をしがちですが、それが感染症拡大のもとだと思うのです。そのためにはもう少し職員体制にゆとりを持たせることや看護師による医務研修の充実を図る必要があります。

●レクリエーションの充実で 免疫力アップを図る

第三に養浩荘ではレクリエーション担当の職員配置により歌ったり体操したり散歩に行ったり、手工芸で手先を使ったりして活性化を図っています。利用者の基礎疾患の把握に努め、持つ免疫力のアップ、様子観察を適切に行い、職員の健康管理、手洗い・うがい等、基本の厳守、嘱託医・看護師との素早い連携により、今年2月の痛い体験を無駄にせず利用者の健康を守っていきたいと思っています。



「アクティブ福祉 in 東京'12」参加者募集!

9月26日(水)、7回目を迎える高齢者福祉研究大会「アクティブ福祉 in 東京'12」が開催されます! 今年には95題の研究発表、10題のポスターセッションのほか、「笑う介護士」の袖山卓也氏特別講演を開催いたします。是非皆様もご参加ください。

〈開催概要〉

日 程 平成24年9月26日(水) 9:20～17:00(受付は8:15～)

会 場 京王プラザホテル
(東京都新宿区西新宿 2-2-1 TEL 03-3344-0111)

参加対象

- ① 高齢者福祉に関心のある方
- ② 高齢者福祉の仕事に関心のある学生
(介護福祉士、社会福祉士等の養成校の学生など)
- ③ 都内高齢者福祉施設等の利用者、家族、ボランティアなど
- ④ 高齢者施設福祉部会・センター部会 会員施設の職員

定 員 1,400名程度

参加費 6,000円(学生は無料)

申込方法 開催要綱は東社協 高齢者施設福祉部会ホームページ(下記参照)に掲載しております。申込用紙をダウンロードいただき、指定の連絡先へお申し込みください。

● 高齢者施設福祉部会ホームページ

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/php/kourei/Kourei.php>

※「高齢者施設福祉部会」で検索してください

主 催 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 高齢者施設福祉部会・センター部会
「アクティブ福祉 in 東京'12」実行委員会

お問い合わせ 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当(アクティブ福祉 in 東京'12係)

TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635 Email kourei@tcsw.tvac.or.jp



江戸川光照苑の「屋形船での懇親会!」 ～屋形船からみる夜景は最高!～

福利厚生情報かわら版

あくていぶ福利

●江戸川光照苑職員親睦会

江戸川光照苑では、職員の福利厚生事業の一つとして発足している職員親睦会があります。親睦会では、年に1回総会を兼ねて、屋形船「綱さだ」(東京都江戸川区江戸川 4-4 TEL03-3679-3859)を貸し切ったの懇親会を開催しています。

毎年のことですが、屋形船からみる夜景は最高! 光と海が映画のシーンのように流れます。そんな夜景を見てスタッフからも、「あ～、なんて夜景が綺麗なんだ!」「見ているだけで、頭がすっきりしてくる」「なんて気持ちがいいんだろう!」と大満足の様子。

夜景が人体に、なんらかの影響を与えているという説もあるくらいです。屋形船も、元来た「今井さん橋」に着く頃には、気のせいかな スタッフ

全員にパワーがみなぎってきたような…。スタッフのモチベーションの回復には絶好の懇親会と、スタッフも毎年楽しみにしている屋形船でした。



船はゆっくりと江戸川をのぼり、ディズニーリゾート、レインボーブリッジをくぐれば、お台場と観光スポットを船上から優雅に観覧

新鮮なお刺身と揚げたての天ぷら、そして見事な夜景をつまみにスタッフも完全にリフレッシュ!



笑顔を大事に



●社会福祉法人 武尊会 特別養護老人ホーム西が丘園 介護リーダー 石井愛（職員研修委員会 介護職員研修委員会 幹事）

ホールにて好きな童話や歌謡曲を歌い始めたMさん。私は手拍子をしながら一緒に歌い、Mさんが歌い終わったら拍手をし、「とても素敵でした」と感想を述べます。その瞬間、Mさんは「そんなことないよ、下手なもの」と照れ笑いをします。

重度の認知症のMさんは、普段は表情が陰しく「ばかやろう」「知らないよ」等不穏な発言が聞かれることが多く、笑顔が少ない生活を送っています。しかし、歌を歌っているときや大好きなご家族の話をしているときは、とても穏やかで素敵な笑顔を見せて下さいます。その時には、私たち職員も一緒になって歌を歌ったり、ご家族の話聞くことで、穏やかで笑顔の多い時間を過ごしていただきたいと考えています。

いつも職員の手伝いを率先してやって下さっているKさん。私が入職したばかりの頃、まだ慣れていないため、介助の際、「嫌だ」と言われてしまったことがあります。そこで、声掛けを行うことで介助への恐怖心を取り除き、コミュニケーションをたくさん取りまし



た。今では、別フロアで勤務している私がKさんのフロアに行くと、廊下の奥のほうから、手を振って挨拶をして下さいます。私も嬉しくなり大きく手を振り挨拶をします。2人とも、笑顔多く会話が進みます。失語症があるため、他の利用者や新しい職員との関わりが少ないKさんですが、こちらからいろいろ話し掛け、信頼を得ることで、関係作りが出来るのだと思います。

利用者に笑顔を多く、楽しく生活していただく為には、まず職員が笑顔を多く介助を行わないといけないと思います。職員が怖い顔をして介助に入れば、利用者も不安になりますし、笑顔で介助に入れば安心します。時に辛いことやイライラしてしまうこともありますが、自分が接したことで利用者の笑顔がみられると、嬉しくやりがいを感じます。これからも笑顔をもって接し、利用者様に穏やかに楽しく西が丘園での生活を送って頂けるよう邁進していきたいと思っています。



※写真と本文は関係ありません

ひと言！
物申す！

連載 8



あなたは

「特別養護老人ホームでの看取りについて」

どう考えますか？

●制度検討委員会

施設入所者の重度化が年々進んでいます。特別養護老人ホーム（以下、特養）の平均在所期間は4年で、退所者の7割が死亡退所となっている今、利用者の「死」は職員にとって身近なものとなってきています。「延命治療を望まない」「安らかな最後を迎えさせたい」といった家族のニーズを大切にすることで、施設での看取りは今後も増えていくと思われます。あなたは特養での看取りについて意義と課題をどう考えますか？

意義

- 必要以上の医療処置で延命を行うのではなく、自然な形で見送るとすることは、人間の尊厳の尊重につながると思う（看護職）
- 心地よく過ごしていただくために、全職員の協力体制が出来、チームワークも強まります（生活相談員）
- 病院で管につながれた状態でいらっしゃる姿よりも、施設でたくさんの人に囲まれた中で最期を迎えられるのは、温かみがあって良いと思います（管理栄養士）
- 病院でなくて施設だからこそ、終末期でも入浴やお酒や余暇といった普通の暮らしを続けて最期を迎えてもらえる（介護職）
- 看取りに関わることで、普通の暮らしの大切さ、一人ひとりの人生に関わることの重さを職員は学ばせていただける（施設長）
- 家族にとっては、一番不安な看取りの時に職員と一緒に関わり支えられ、自然な形で見送れることは大きな安心につながっていると思う（看護職）

課題

- 連携できる医師の確保や医療機関が少なく、介護職員が中心で看取りを行って行くことに不安がある（介護職員）
- ご本人様、ご家族様、職員等の全員が同じ気持ちで同じ方向を向いていないと不安になったり心配になったりします（ケアマネ）
- 「死」に対し職員の気持ちが重くなる場合があります。職員にしっかりとした教育が必要です（生活相談員）
- 絶食となった時に手立てが無いです。何か出来る事は無いかと思います。表情を伺ったりと言う事以外にも何かできたらなあと日々考えています（管理栄養士）
- 医療が看きれない部分が福祉に安易にゆだねられてしまうことは懸念される。看取りも胃瘻も痰の吸引も必要で大切なものであり、それを担う職員の体制の安定がなければ行えない（介護職員）
- 今後、病院で看られないからという理由で施設に任されていく方向に安易に進まないように慎重さが必要。施設の体制への医療の理解を深めるべき（看護職）

部会の動き

- 6月4日 外国人介護者の受入れに関する検討会 座談会「日本の介護現場における外国人介護者を考える」開催
- 6月11日 東京の福祉施設の建替の問題について、厚生労働省老健局のヒアリングに対応
- 7月12日 平成24年度第2回高齢者施設福祉部会総会（省エネ対策講演会等）

地域包括ケアシステム 生活圏域における 高齢者福祉施設の関わり

社会福祉法人武蔵野
武蔵野市くぬぎ園 / 武蔵野市桜堤ケアハウス
高齢部門統括施設長 阿部敏哉

福祉行政への武蔵野市のスタンス

私が武蔵野の地で働くようになって20年が過ぎました。その間、武蔵野市の福祉行政のスタンスは、「公共サービスとしての守られるべき質を確保」「行政主導の全市的な施策」「社会福祉の供給主体との協働」ではないかと思います。

介護保険制度に移行してからも同じようなスタンスです。例えば、ケアマネジャー研修センターを開設してケアマネジメントの適正化を図り、医療機関と共同で地域連携パス（脳卒中・認知症）を作成、地域包括支援センターを本庁に一括し、ランチ機能を持たせた在宅介護支援センターを地域に配置、市独自の日常生活支援事業を制定するなど、行政主導での全市的な施策が多くあります。

地域包括ケアシステム構築の要件

「地域包括ケアシステム」の構築とは、急性期病院と地域医療、介護との連携、さらに地域医療と介護・福祉の連携など、医療、保健、介護、福祉等のフォーマルサービス内の連携が求められます。さらに、フォーマルサービスとそれぞれの地域でのインフォーマルサービス（住民の見守りや地域社会からの支援等）との連携も重要になってきます。

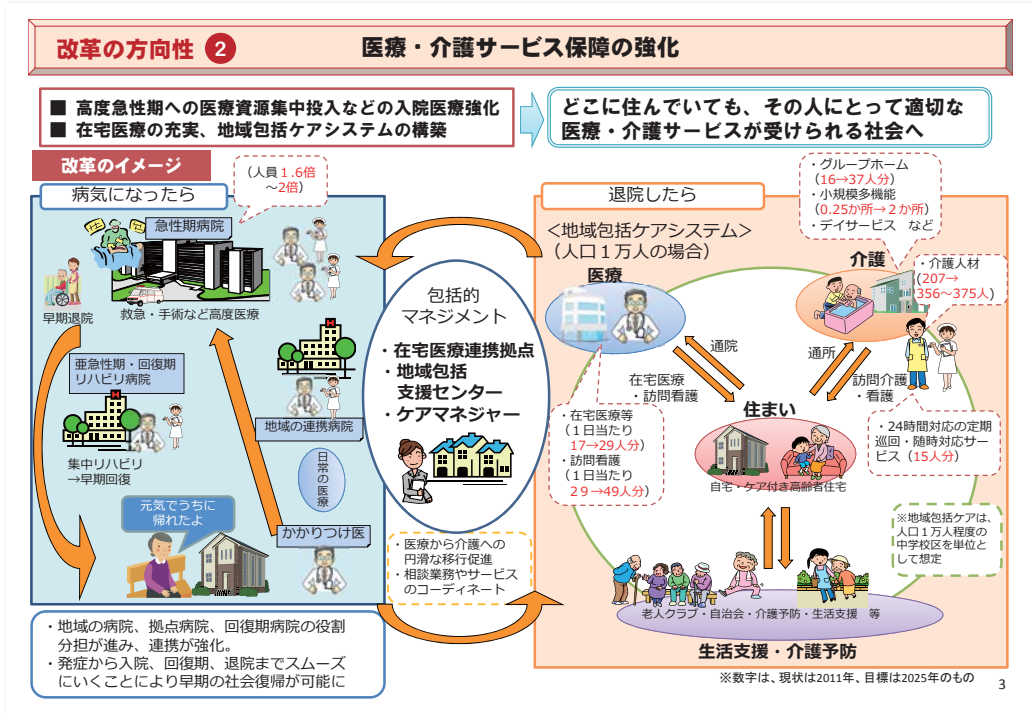
武蔵野市の健康福祉総合計画と当法人・高齢者福祉施設の関わり

昨年度には、「武蔵野市健康福祉総合計画 2012」を策定するための委員会が発足し、市の「地域リハビリテーション」^{*1}の理念に基づき高齢者計画についても検討がなされました。私もこの計画の策定委員として参加いたしました。計画書の「重点的取組み3 在宅生活を支える体系的支援」では、本庁にある地域包括支援センターは、保健・医療・福祉等の関係者による全市的な地域支援ネットワークを活用した包括的な支援に取り組み、市内6ヶ所の在宅介護支援センターは在宅支援ネットワークの拠点としてそれぞれの地域（生活圏域^{*2}）での住民や専門職相互の協働を進め、包括的な支援にあたりと表記されました。私は、武蔵野市の展開を、図1の「社会保障と税一体改革で目指す将来像」の左側が地域支援ネットワーク、右側が在宅支援ネットワークとしてとらえています。急性期・回復期での関係機関の連携に重心を置くのが地域包括支援センターで、維持期・在宅での生活を支える支援に重心を置くのが在宅介護支援センターと考えられます。

地域支援ネットワークではいくつかの推進協議会や分野別会議等を設け、全市的な調整や在宅支援のツールを検討することにしています。

しかし、在宅支援ネットワークでは、在宅介護支援センターの生活圏域ごとにその地域のニーズや特徴、社会資源等を踏まえた計画が具体化されていないのが実情です。地

図1 地域包括ケアのイメージ (平成24年1月6日 社会保障・税一体改革で目指す将来像 厚生労働大臣提出資料より)



地域ごとの特徴を踏まえる、それぞれの地域の住民である担い手同士、参加者同士で地域の様々な関係性をつくり、地域の支援力を育成するという事は、市は苦手である節もあります。

当法人は6つある在宅介護支援センターの内、2つの生活圏域を担当し、そこには本体施設として高齢者福祉施設を持っています。当法人の中期基本計画では、高齢者福祉施設が地域の拠点として展開し、必要なアウトリーチ型^{※3}のサービスを新たに所持することを掲げ、調査、研究をし、まずは住民が集まるサロン活動^{※4}を開始しました。また、地域住民の一人ひとりのなじみの人間関係の維持、既存のコミュニティから離脱させないための仕組みとはどのようなものなのか、2年前から毎年、「地域包括ケアシステム」に関する研修会を開催しています。市の職員へも参加を呼びかけ、共通理解、共通認識づくりを行っています。

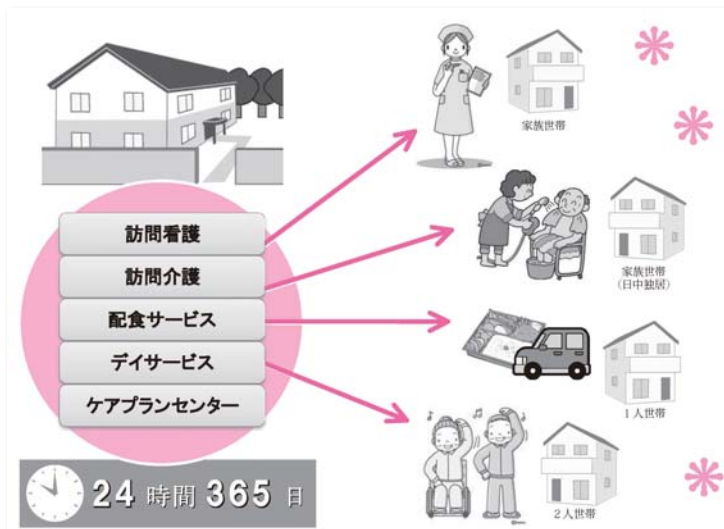
※1 2002 (平成14) 年12月に市の専門部会より報告書が出されました。基本的な考え方は、市民が年齢や状態に関わらず、住み慣れた地域で、本人の意思に基づいてその人らしい生活が続けられるよう、ライフサイクルを視野において、継続的かつ体系的に支援するという考えです。国の「地域包括ケアシステム」の理念と多くが重なります。

※2 生活圏域
住み慣れた地域を中心とした日常生活を営むエリア。人口規模や高齢化率、社会資源の多寡、文化的な背景により圏域の大きさも変わってきます。都内の人口密集地の場合では、高齢者人数が多いため、徒歩30分程度でかけつけられる範囲とも考えられます。

※3 アウトリーチ型のサービス
英語で「手を指しのばす」という意味。申請主義的なサービスの利用だけでなく、潜在的なニーズを表に出せない方へ積極的に多様な支援等を行うことです。

※4 サロン活動
会食型食事サービスや家族介護者のサロンなど

図2 高齢者福祉施設が拠点となつてのイメージ図 (社会福祉法人武蔵野作成)



職員 研修

Hop Step Jump

第3回 「継続研修～互いに学び、高めあい」

●シャローム東久留米 生活相談課長 望月 太教

私どもの施設では、新人研修以降の継続研修を2年前から導入しました。継続研修は大きく分けると課内勉強会、階層別研修、外部研修となります。

1) 課内勉強会（全員が行う研修）

新人も含め、全職員は、まず各自で自己目標を設定します。これは仕事において向上したいことを決めます。同時に全員同じ内容で接遇、態度や姿勢などについてチェック項目表を設け、この二つについて年に3回、所属主任と面接をし、自己評価を見ながら確認、指導をします。

約2ヶ月に一度行われる課内勉強会の後には、必ず全員にレポートの提出を求めています。課内勉強会は同一内容で複数日程を設定し、参加しやすいように配慮しています。

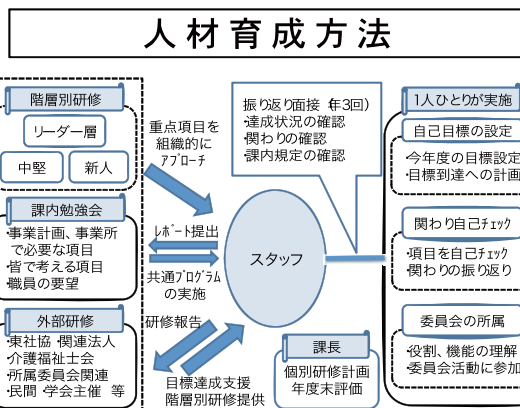
2) 階層別研修

新人、中堅、リーダー層と分けて研修を行います。リーダー層は安全や衛生、法令順守など管理する上で重要なことを確認します。中堅層の研修は、勤務調整をして年に4回程度、毎回同じ職員を集めて一日研修を行い、BS法やKJ法の要素を取り入れ、様々な討議をします。抽出した課題を基に改善計画を立て、他のスタッフを巻き込みながら実践、評価をしていきます。

3) 外部研修

年3回の面接を通して、外部での研修を希望する職員には、できるかぎり機会を与えます。外部研修参加は個別研修計画に基づいて行い、研修終了後は報告書提出や伝達研修を通して、本人だけでなく他のスタッフも啓発されることを願っています。

このような研修の成果として、各職員が命令や指示を受けて行動するのではなく、何をしたら全体のためになるかという視点で考えるようになり、自主性や積極性が生まれ、行事や日中のプログラムの質が変化し充実するなど、確実に成果が表れて来ています。“互いに学び、高め合う”機会として継続研修に取り組んでいます。



日付	研修内容
9月11日	「ユニットケアにおける住環境と生活補助具」研修会
9月12日	高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修会（第4回）
9月15日	生活相談員スキルアップ研修会（第5回）
9月24日	ユニット型特養情報連絡会
9月26日	第7回高齢者福祉研究大会
10月16日	アクティブ福祉in東京12
10月20日	高齢者施設福祉部総会
10月23日	生活相談員スキルアップ研修会（第6回）
10月23日	室内衛生管理研修（仮題）
11月14日	BCP研修報告交流会
11月17日	生活相談員スキルアップ研修会（第7回）
11月20日	高齢者福祉施設におけるサービスマナーフォローアップ研修会
11月22日	チームマネジメントを学ぶフォローアップ研修会
11月22日	生活相談員ソーシャルワーク研修会
11月23日	介護のコト体験フェア
11月26日	ユニット型特養情報連絡会

●主な部会関係研修会等の予定
(9月～11月)

※7月末時点での予定となりますので、内容の変更・中止となる場合があります。また、記載していない研修会が開催される場合もあります。詳細は会員向け開催通知等でご確認ください。

「養護老人ホーム」の 七夕祭について

●養護老人ホーム 日の基青老閣 施設長富山武司

人生の先の短い老人が、七夕に懸けるものがあるのかと、疑問の声もありますが、逆に養護老人ホームならではの昔取った杵柄、素晴らしいアイデアと技能で、立派な七夕飾りを製作し、地域社会に好評を博している施設があります。それこそ、他ならぬ「日の基青老閣」であります。

施設で生活されているお年寄りが、手芸クラブを中心に、廃品活用とリサイクルを基本として、約半年掛かりで作り上げたものであります。今年のモチーフは、ロンドン・オリンピックに因んで『オリンピック（金）に願いを込めての七夕作り』といたしました。私から申しますのも僭越ですが、誠に立派にできました。

施設で生活されている利用者様が、真剣に星に願いを込めた短冊には、それなりに意味があり、感動を禁じ得ないものがあります。

1 NHK「お元気ですか日本列島」に取りあげられる!!

今年はNHK総合の「お元気ですか日本列島」の番組に、「七夕～わたしの願い」をテーマに「日の基青老閣」の七夕の写真が紹介されました。また、恒例により北ケーブルテレビの取材もあり「北区、夏の風物詩」として、ニュース・キタの番組に取り上げられ、利用者様のインタビューを含め、1週間、毎日4回放映されました。

2 地域社会で認められたことで元気に!!

現在は静かに老後を過ごしておられる、高齢者の皆様が、長い人生の経験のもと身に付けられた、物づくりのアイデアと技能が立派に開花され、地域の住民の皆様や関係者の皆様に喜んでいただいているのであります。皆様にほめられたり、マスコミに取り上げられることは、製作した利用者の方々に、来年も頑張ろうという意欲をもっただけ、しいては来年一年元気で長生きが可能になるのであります。老人ホームの目的・使命が実現できることになるのであります。



江戸川区初の 軽費老人ホーム

●アゼリーグループ 社会福祉法人 江寿会
ケアハウスアゼリーアネックス 施設長 福原 聡一郎



東京都江戸川区に位置するケアハウスアゼリーアネックスは、2007年3月に特定施設入居者介護の指定を受け、軽費老人ホーム（ケアハウス）として開設し地域の方々に支えられて、現在6年目を迎えています。

特定施設入居者介護とは、入居されている要介護者に対して、介護サービス計画に基づいて行われる入浴・排泄・食事等の介護、その他の日常生活上又は機能訓練を指します。

現在当施設の平均介護度は要介護2であり、4階建の2階から4階までは各20室の定員60人のご利用者様が生活をされています。又1階では、定員50名のデイサービスが併設されており、日々リハビリ・レクリエーション・ケアハウスのご利用者の方々と交流を楽しまれています。この他周辺地域の高齢者の方々への介護予防などの活動をする地域包括支援センター（熟年相談室）も活発な活動を行っています。

当施設の特徴として、ユニークなイベント（シークレット鍋大会・フォーミュラ流しそうめんグランプリ・夏なのにクリスマス会・恋のかま騒ぎ・冬の



朝礼の様子

どなた等）を多々開催し、ご利用者様に楽しんでいただいております。

またもう一つの特徴として、アゼリーグループのビジョンである Great Happiness（関わる全ての人々が共に尊重し、幸せになること）を目標に、経営理念、行動指針などの唱和をする、活気のある元気な朝礼を職場ごとに毎日行っております。グループ内の全職員が勤務中は常に携帯していて、「経営理念」「行動指針」「目指す人財」「目指す職場」が記載された「クレドカード」を全職員が常に携帯しています。各職員はどのような姿勢で業務に取り組めばよいかという理想像が確認でき、業務にて困ったときのバイブルとして活用しています。仕事を始める時は、気持ちやモチベーションが非常に重要であり、このような朝礼の精神で理想の施設像、職員像を作り上げご利用者様の満足度を上げ、サービスの向上、職員の成長につなげています。今後も更なるご利用者様のニーズに対応できるよう創意・工夫を続けて参ります。

ケアハウスアゼリーアネックスでは、今年の10月より増床工事が始まり、新たに36床（ショートステイ6床含む）が2013年の秋にオープンいたします。

今後もアゼリーグループの総力を挙げて、ご利用者様、地域の方々に喜んでいただけるよう、サービスの向上に努めてまいりますとともに、職員一同更なる成長を続けてまいりたいと願っております。



【イベント】恋のかま騒ぎ



ご利用者長寿の祝いの様子

第3回 名物施設長紹介

西が丘園
佐々木悟 施設長

「求められる人材を育て、自らも成長する」

●つきみの園 玉川弘美

昨年秋に30代半ばで施設長へ就任された佐々木さん。平成10年開設から携わってきた西が丘園への想いを語っていただきました。

生活相談員から事業全体の管理的な立場に転身し、「まずは行動・実践してみる」ことを視座に、社会の変化に柔軟に対応していくための判断・スピード力が要求される環境下で、「できない理由」を探すよりも、施設として「実現可能なこと」を提案する機会を持ち、現場のリーダー層と共有しています。

高齢者の多い地域でニーズや意識が高まり、施設の存在意義や期待は大きいはずなのに、実際には地域に「一般化（認知）されていない」ことで、施設の機能を充分果たせていない課題があります。

そのような状況で最も運営に影響を及ぼす要因の一つに、「人」の移り変わりがあります。どの業界も避けて通れないテーマでありますから、普段からの職員とのコミュニケーションを通して、帰属意識を持ち続けられるよう、働きやすい労働環境を提供する＝目標・理想とする職員の下で働きたいと思える組織風土に築き上

げることが先決であると感じています。

さらに、将来有望で魅力ある職員には、専門性を高める根底に、人間性と社会性があることを認識し、「限られた資源：ヒト・モノ・コストを大切に」「何に対しても感謝の気持ちがある」「誰よりも人の痛みがわかる」人材で、かつ常に目標を持ち続け、達成するために自分自身をさらに磨いてほしいと願っています。

西が丘園の今後は法人全体が事業拡大の過渡期・変革期にあるので、基本理念に立ち返ってグループとして施設、地域の職員が一体となって地域に貢献できるよう、「利用者本位」「価値」「尊厳ある」サービスを具現化し、利用者選ばれた施設を創っていきたいです。

熱い想いと志の高さ、そして何より親しみやすい人柄が職員を支えているのだと思います。これからも施設の顔として地域住民との調和をはかりながら、西が丘園の大いなる発展とますますのご活躍を祈念します。お忙しい中、貴重な時間をいただきありがとうございました。



熱中症予防 ～日常生活でのポイント～

●特別養護老人ホーム ひらお苑 管理栄養士 松本昌子

熱中症は高温・多湿・風が弱い・輻射源（熱を発生する物）がある環境で起こりやすく、体から外気への熱放散が減少し、汗の蒸発も不十分となることで発生しやすくなり、重症では死に至る事もあります。近年では、高齢者の熱中症以外にも、仕事中や室内での熱中症の発生も多くなっています。まだまだ暑い日が続きます。暑さ対策・水分補給・体調管理を行い熱中症を予防しましょう。

●熱中症予防のポイント

1. 暑さを避ける（帽子や日傘の活用・エアコンや扇風機、よしず等での室温調整）
2. 服装の工夫（吸汗、速乾性のある服の着用。クールビズの実行）
3. こまめに水分補給（喉が渇く前や、暑い場所に出る前には水分補給をしましょう）
4. 急に暑くなる日に注意（梅雨明け後や、急に暑くなった日などは熱中症が多発します）
5. 個人の体調も影響（寝不足、脱水、食事抜き、二日酔いなど体調不良の日は要注意）

健康問題
health

未来を切り開くトライさんの

介護最前線

～介護に関わる最新技術や情報を私トライが紹介します！～

第3回 テーマ

「失語症の方のコミュニケーションツール」

● 特別養護老人ホーム 福楽園 介護支援専門員 織田英樹

失語症とは

「失語症」って脳梗塞や脳出血等を
 起因とする言語障害だね。うまく言葉が
 出せずしゃべることが難しい「運動性失語症」
 や言葉が外国語のように聞こえ理解できない
 「感覚性失語症」に分けられるんだって。失語症と
 共によく聞く言語障害が構音障害だね。言葉が出
 にくく聞き取りにくい点は一緒だけど、その原因
 に大きな違いがあって失語症は脳の障害（大脳
 の言語中枢）、構音障害は声を出す機能面の
 障害なんだって。どちらも言葉を伝える
 ことが難しくなるから援助が
 必要になってくるね。

ツールに変化が

では、「コミュニケーションツール」（以
 下ツール）にはどんなものがあるのか調べてみ
 よう！文字ボードや筆談ボードのような一般的なもの
 から、筆談を補助する機器（ボタンひとつですぐ消せ
 る）、音声発声機器でペン型（ペンでなぞると言葉を発す
 る）やキーボード型（登録された言葉や入力した言葉を発
 する）。また数十万もする高価な機器までいろいろあるんだ
 ね。全体的に筆談の補助や言葉を発することが主な機能にな
 っているね。そんなツールも時代と共に使用する機器に変
 化が見られているよ。数年前から携帯電話、スマートフ
 ォン、タブレットPCを利用したツールがあるよ。携
 帯電話やスマートフォンは気軽に持ち運んで使
 えるという利点はあるけど、画面やボタ
 ンが小さいから高齢者には難
 しいかも…。



タブレット PC を活用！

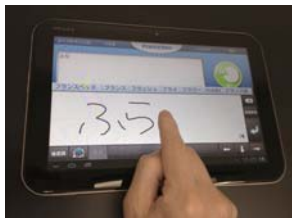
タブレットPCはタッチパネルで画面も大
 きいし視覚的にも見やすいから高齢者にも扱い
 やすいかもしれないね。こんなツールがあるよ（写
 真①）。元々認知症の方のスケジュール管理を目的とした
 ものなんだけど、絵カードにタッチして言葉を発するという
 機能の方が注目されて、ツールとしての問い合わせや要望が
 多くなったものなんだって。もうひとつは7月に発表されたばかり
 のツールだよ（写真②）。画面上のキーボードで入力し
 た言葉を発するもの。入力した履歴や携帯電話のような予
 測変換を活用しながらおしゃべりの手助けをしてくれる
 よ。タブレットPCはアプリによっていろんな用途で活
 用できるから今後もいろんなツールが登場するかも
 しいね。（取材協力 フランスベッド
 株式会社）

近い将来

失語症に関する機器の開発や
 研究はスマートフォン、タブレットP
 Cの活用や身振り手振りを利用した家
 庭用ゲーム機との連携等、いろいろ進
 められているよ。近い将来「思っ
 ていることを言葉にしてくれる」そ
 んなツールが開発されるかも
 しませんね。



写真① iPad を利用した
「おしゃべり Pad」



写真② REGZA Tablet を利用
した「おしゃべりタブレット」

編集

後記

早いもので
 10号をお手元
 にお届けすることができ
 ました。創刊以来、ご協力いた
 いた皆様に感謝を申し上げます。
 ありがとうございます。

本号では、深夜までオリンピックの観戦
 に熱くなりながらも、日中、猛暑
 の中を取材に奔走して頂きました
 編集委員の方々に深謝いたしま
 す。おかげさまで、特集・名物施
 設長などが充実した記事になりま
 した。

8月は鎮魂と追悼の月です。広
 島・長崎の原爆記念日、御巣鷹山
 の慰霊祭、終戦記念日、そしてお
 盆と続きます。今年は、それに加
 えて、東日本大震災による被災地
 の復興と鎮魂を願って祈らずには
 いられません。

広報誌編集長 田中雅英